

職リハレポート No.14

研究企画部企画調整室

今号の内容

研究成果活用レポート

職リハレポートでは、障害者職業総合センター研究部門における研究成果の活用事例を随時ご紹介しています。

今号では、以前ご紹介した宮城県の就労移行支援事業所「就労支援センターほっぷ」における、ワークサンプル幕張版（通称「MWS（ムース）」）の活用について改めて詳しくお話をお聞きする機会を得ましたので、ご紹介します。

前回は、活用にあたっていろいろな工夫をされながらも「まだ十分使いこなせておらず、試行錯誤の状況」と話されていまして、今回はその後の活用の様子や利用者の感想、就職・復職後のフォローアップの様子などをお聞きしています。

なお、研究企画部企画調整室では、研究成果の活用事例について、随時、募集しておりますので、「〇〇の研究が〇〇に役立った」「〇〇の研究成果を〇〇に利用している」「〇〇をこのように活用している」等々、お気軽にお寄せください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究企画部企画調整室
〒281-0014 千葉市美浜区若葉3-1-3
Tel : 043-297-9067
Fax : 043-297-9057
Mail : kikakubu@jeed.or.jp

研究成果物の活用事例のご紹介

— 高次脳機能障害の方を支援対象としている就労移行支援事業所における ワークサンプル幕張版(MWS)の活用事例 —

ワークサンプル幕張版（以下「MWS」という。）の活用事例は、これまでいくつかご紹介していますが、今回は高次脳機能障害の方を支援対象とし、プログラムに MWS を導入している宮城県の就労移行支援事業所の取組をご紹介します。

【宮城県】

■ 特定非営利活動法人ほっぷの森 就労支援センターほっぷ

就労支援センターほっぷ（仙台市青葉区）は東日本大震災の翌年に現在の場所に移転して事業を行っている就労移行支援事業所です。仙台駅から徒歩5分で、1Fに飲食店があるビル4階にあり、とても利便性がよく、わかりやすいところです。サービス管理責任者の平山昭江さんにお話をお聴きしました。

■ 就労支援センターほっぷの事業内容や特色についておしえてください。

平山> 就労移行支援事業所として、平成19年9月に10名（定員20名）で事業をスタートしました。法人としては、他に就労継続A型・B型、相談支援事業所も立ち上げて就労支援に取り組んでいます。スタート間もなく宮城県の職業能力開発校の委託事業を受託して高次脳機能障害の方の支援を行ったのですが、訓練後の就職の難しさを強く感じ「働きたい」という思いを共に考え、サポートしたい・と思い、高次脳機能障害の方のトレーニングに取り組み始めました。今は19名の方が就労支援センターほっぷに在籍しています。今年高校を卒業した方から50歳代まで年齢的にも幅広い方にご利用いただいています。男女比でみると圧倒的に男性が多くなっています。



（写真1）事務室入口から見えるプログラム室

年々、高次脳機能障害の診断を受けている方の利用が増えています。医療機関からの紹介で利用に至っている方が多いです。また、最近では休職中で復職を考えている方の問い合わせが増えてきています。復職希望の方は30歳後半から40歳代の方が多く、現職復帰が難しいと思われる場合もあります。今後に向けて様々なニーズに何をしたらいいかを模索しながら取り組んでいるという状況です。

■ プログラムがかなりしっかり作られているようですが、いつ頃からこのスタイルで実施されているのですか。

平山>プログラムは「自分を知る」「仕事を知る」「企業を知る」の3つの「知る」をベースにコミュニケーション力の向上、作業スキルの確認、就職に向けての準備と活動に繋がっていくようにしています。就労支援を考えた時、就職するための支援も必要なのですが、働き続ける力もとても重要で、そのためには就職前のトレーニングに特化する必要があると思います、最初の頃から今のスタイルで進めてきました。プログラム内容については、初期のメンバーに「仕事の時に困ること」を聞くと、人との会話や関わり方、作業指示に上手く対応できない、覚えるのが難しい等の話があり、一緒に考えヒントをもらいプログラムを作り上げ今に至っております。毎日セルフトレーニングとして個々の課題に取り組む時間を設け、パソコン入力や軽作業、MWSも活用しながら、作業スキルの確認をしています。

- プログラムの中で、MWSやメモリーノートを活用していますが、きっかけは何だったのでしょうか。

平山>宮城県の職業能力開発校の委託事業で高次脳機能障害の方の支援の際に、宮城障害者職業センターで使用しているメモリーノートという記憶の補完にもなる支援ツールがあることを知りました。仕事をするのであれば、自分でスケジュール管理することが必要になりますが、記録を見て予定を把握して自分でやっていくことは就職先でもとても大事だと思ったので、利用者は皆教材として活用しています。



(写真2)メモリーノートで一日の振り返り

MWSはOA作業の「数値入力」「文書入力」、事務作業の「物品請求書作成」「作業日報集計」、実務作業の「ピッキング」等を活用しています。



(写真3)物品請求書作成に取り組む様子

- MWSを実際にプログラムで活用した感想を教えてください。

平山>利用者は実際にやってみると、結果が具体的に見えるので、ミス傾向や見落とし、間違いやすい箇所を見つけやすかったりするようです。支援者としてもフィードバックしやすいと思っています。ただ、実施結果の分析や活用がなかなか難しく、苦労しているところでもあります。個人差はあるものの作業を継続していくと、作業時間が短縮されたりミスが減ってきたりしますが、これが果たして一般と比較してどうかといった点が本人達にはイメージしにくいところがあるようなので、一般との比較が具体的に示せるとなおよいと思います。実際にはいろいろとアレンジして活用しています。例えば、失語症でパソコンの文字入力が難しい方には、「数値チェック」の課題を応用して、請求書の数字を指定のフォーマットに入力をしたり、電卓で計算したものを入力する等という作業をやらせてあげることがあります。ただ手順書がないので、手順書を改めて作り直しました。また、「数値チェック」や「物品請求書」の課題を進めていくと集計用紙が膨大になるので、確認者の印鑑を押して仕分けてもらったり、仕分けたものを仕分けボックスに入れて整理してもらったりすることも、作業のひとつとしました。

- その方に合った課題を用意できるようにいろいろと工夫して活用しているのですね。

平山>あるものを有効に使いたいと思い、実際にやった結果を捨ててしまうのは勿体ないので何か使えないか、いい方法はないかと考えアレンジして使っています。支援ツールとしてすごくいい材料になっています。

- 利用者の皆さんの感想等はお聞きではないですか。

平山>直接聞いてみたことはないのですが、数値チェックをやっていた方が「1シートだけだと殆どミスが出ないけど、3シートくらい続けてやると最後の方でミスが出てしまう。時間的にそこまでやると疲れてしまうのかな」と言っていました。人それぞれだと思いますが、MWSを通じて自身の取り組みを振り返って何かしら気づける部分があるのだと思います。特に自分ではできていると思っている方が実際にやってみて違った結果が出て気づけたりするようです。あと、日常パソコンを利用する方は事務系の仕事がやりたいと言われるのですが、具体的なイメージが難しい場合が多いので、事務作業の課題が増えるといいと思います。「ファイル整理」「コピー&ペースト」はパターンを覚えてしまうと比較的早く作業が終わってしまうので、表計算やピ

ジネス文書の作成ツールのようなものでちょっと難易度の高い課題があると、実際の仕事のシミュレーションにもなっていないのではないかと思ったりします。

- 最後に、就職された方や復職された方のフォローをどうしているかおしえてください。

平山>先輩会と言って年4回程度就職した方を呼び、お話を聞いたり、交流会をやったりしています。また、最近になって働いている先輩が仕事帰りにふらっと立ち寄り働いている人同士で話せたりできるように18時から19時半まで休憩スペースを開放するようになりました。こうした機会を通じて、働いている人には仕事以外のつながりの場を、利用者には働いている先輩達から刺激をもらって目標を持って取り組んでもらえるといいと思っています。先輩の中には働いてからもメモリーノートを持っている人がいます。「忘れるのが不安だからお守り代わりに…」持っているんだそうです。ここで取り組んできたことが皆何らかの形で残ってくれているのかなと思うと、この事業所を離れたあとも活かしてもらえるものを提供していかないといけないと思っています。

○ ワークサンプル幕張版(MWS)の概要

- ✚ ワークサンプルとは実際の仕事に類似したサンプル（標本）となる作業のこと
- ✚ 「トータルパッケージ」に含まれる中核的なツールの一つである
- ✚ 障害種類を問わず、職業評価や作業能力向上のための支援に活用できる
- ✚ 評価や体験を目的とする「簡易版」と作業能率の向上や補完手段の獲得を目的とする「訓練版」がある
- ✚ 簡易版で半日～1日程度、訓練版は数日から数週間で実施する
- ✚ 以下の13種類の作業から構成され、選択して実施することが可能（訓練版）
 - ◇ O A作業として数値入力や文書入力など5種類
 - ◇ 事務作業として数値チェックや物品請求書作成など4種類
 - ◇ 実務作業としてピッキングやプラグタップ組立など4種類
- ✚ 標準化されており、結果が数値化(正答率・パーセンタイル順位など)されるので、変化等がわかりやすい

MWS の課題のうち、OA作業の「数値入力」「検索修正」、事務作業の「数値チェック」「物品請求書作成」、実務作業の「ピッキング」については、レベルの増設（レベルの引き上げ）あるいはブロックの増設（問題数の増）を行いました。概要は、働く広場2017年3月号の「研究開発レポート」で紹介していますので、ご覧ください。また、新規課題の開発も進めており、将来的にOA作業、事務作業及び実務作業に新たな課題を1課題ずつ用意していく予定です。

(参考)

1. MWS 既存5課題の改訂内容

調査研究報告書 No.130「障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発ーワークサンプル幕張版（MWS）の既存課題の改訂・新規課題の開発ー」（2016.3）から

領域	ワークサンプル名	レベル数 (難易度の高いレベルの創設)	各レベルのブロック数 (問題増量)	
OAWork	数値入力	6 → 8	12 → 40	
	検索修正	5 → 6	20 → 40	
事務課題	数値チェック	6 → 8	12 → 40	
	物品請求書作成	5 → 6	10 → 40	
実務課題	ピッキング	5 → 7	レベル	ブロック数
			1 ~ 3	15 → 20
			4 ~ 5	16 → 20
			6	20
			7	15

- 各作業の試行をまとめたものがブロック、ブロックがまとまったものがレベルとなります。改訂した5課題は、ブロック数で倍以上となるものがほとんどで、また難易度となるレベルも増設されるため、5課題の全てについて準備された作業の量が倍以上になっています。

<http://www.nivr.jeed.or.jp/research/report/houkoku/houkoku130.html>

企画調整室からのお知らせ

第25回職業リハビリテーション研究・実践発表会を開催します。

日時：平成29年11月 9日（木）13時00分～16時40分

11月10日（金） 9時30分～16時50分

※発表会に先立ち、基礎講座及び支援技法普及講習を行います

（11月9日（木）10時30分～12時00分）

会場：東京ビッグサイト会議棟（東京都江東区有明3-11-1）

～国際会議場・レセプションホール・各会議室～

目的：職業リハビリテーションに関する調査研究や実践経験の成果等を広く周知するとともに、参加者相互の意見交換、経験交流等を行うことで、職業リハビリテーションの支援技法向上を図り、障害者の雇用を促進することを目的としています。

◎詳細及び参加申込みにつきましては、下記 Web サイトをご参照ください。

<http://www.nivr.jeed.or.jp/news/vrhappyou25-history.htm>